



昴の今日と明日Ⅱ

No.51, Aug.27th, 2013 (編集・発行)昴☆共生社会研究所

“かわいいサミット”に参加して

8月22日から26日までに5日間、熊谷八木橋デパートの8Fカトリアホールをメインに8階のフロアで「かわいいサミット2013」が開催されました。

「CILひこうせん (<http://cil-hikousen.jp/>)」というNPO法人の仕掛けで今年で5回目になるそうです。いろいろな障害福祉系の団体や施設が参加し、様々な商品の展示即売とともに、ステージではプロやセミプロを含むバンドが次々に立って演奏をするという賑やかなイベントです。

「かうんと5もどうですか？」と誘っていただいて、喜び勇んで参加しました。結構好評で、売り上げの総額は10万円を超え、作家さんたちにも還元できます。それにしても設立してまだ10年余りという「ひこうせん」の頑張りは大したものです。(仕事の展開ぶりはHPを見てください)、そのスタッフの方々から、「かうんと5って昴さんですよ、私たちは昴の仕事から学んだことがたくさんあります。」と言われるて恐縮するばかりでした。

ひこうせんは次々に新しい仕事を創り出し、ニーズに応えながら、こうしたイベントも成功させているようです。しかもNPOだから、我々社福に比べると運営にも苦勞が多いはずなのに。

おそらく、彼らはこうした活動と事業の運営を車の両輪として取り組んでいるのだと思います。それらがきっと相乗効果を生み出すと信じて、事実そうなっているのだと思われます。



かうんと5の
新商品のクリア
ファイル「マスク
マンシリーズ
Vol.1」

厚労省の

「障害会社総合福祉推進事業」に採択決定

「常時介護を要する障害者等の支援体制について」をテーマに社会福祉法人昴として、この事業に参加することが内定しました。

この事業は検討委員会と調査事業担者会の二つの組織で運営されますが、いずれにも法人外部の方々にも協力を依頼して体制を整えます。

9月21日に第1回目の会議を開き詳細を検討しますが、各事業所あるいは職員の皆さんにデータ提供や議論への参加など協力をしていただくこともあるかと思いますがよろしく。

研究の具体的な中身は「常時、介護を要する障害者」とはどのような人をさすのか、そして「常時」とは何を意味しているのか、また時間的にはどれぐらいという特定ができるのか、さらにその中で提供される「介護」とはどんなことが期待されているのか。そんな課題を明らかにすることになるでしょう。

漠然と言えば、身体あるいは知的ないしは行動上、またその両方に重度の障害がある人が想定されますが、常時が24時間ないしは1日のうちのきわめて長時間を意味するとしたら、身体障害のある人にはまるで「見えないベッドに縛り付けられるように」入院しているようなことだし、知的障害のある人にはかえって煩わしいということになるでしょうし、少なくとも行動障害の強い人には、介護者がつきまとい監視するような支援は迷惑なばかりで生産的とは言えません。

そう考えると、シンプルな研究テーマに見えて、中身はかなり難しく厄介です。昴がこれまで取り組んできた仕事の中身を問い返しながら、我々は重い障害のある人への支援をどう考えどう取り組んできたのかを明らかにし、改めてこれからの政策や制度づくりに意見を述べることに挑むことになります。